2019年度　休眠預金活用事業

「事業名：こども食堂サポート機能設置事業」

事後評価報告書

【実行団体】一般社団法人こどもの居場所サポートおおさか
【資金分配団体】全国食支援活動協力会

舞い上がれ
社会を変える
みんなの力
休眠預金活用事業

一般社団法人
こどもの居場所
サポートおおさか

もくじ

1 基本情報・事業概要

2 事後評価実施概要
- 2-1 実施概要
- 2-2 実施体制

3 事業の実績
- 3-1 インプット（主要なものを記載）
- 3-2 活動とアウトプットの実績
- 3-3 外部との連携の実績

4 アウトカムの分析
- 4-1 アウトカムの達成度
- 4-2 波及効果
- 4-3 事業の効率性

5 成功要因・課題

6 組織基盤強化の分析

7 結論
- 7-1 事業実勢のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価
- 7-2 事業実施の妥当性

8 提言

9 知見・教訓

10 資料（別添）

1．基本情報・事業概要

【実行団体】**一般社団法人こどもの居場所サポートおおさか**
【事業名】**こども食堂サポート機能設置事業・こどもの居場所サポートおおさか**
実施期間 ｜ ３年（2019～2022）　　対象地域 ｜ 大阪市を中心に大阪府下の近隣市

資金分配団体 ｜ 全国食支援活動協力会
資金分配団体事業名 ｜ こども食堂サポート機能設置事業
事業の種類 ｜ イノベーション企画支援事業

解決を目指す社会課題

2008年以降子どもの貧困が全国的に問題となり、2012年頃より地域住民が自発的にこども食堂を開設、現在は約3700か所（2016年は約300か所）まで広がり、地域の実情に合わせた子どもの居場所づくりに取り組んでいる。しかし、こども食堂実施団体の運営基盤は脆弱で自己資金を拠出し活動を続けている状況がある。学校・関連機関との関係構築のノウハウ不足により支援体制が未整備といった課題がある。

子どもの貧困（体験や交流を含む）と向き合うこども食堂等居場所を支えるためのサポートセンターのモデル化

支援対象　大阪市を中心とする大阪府下のこども食堂等居場所団体

中長期アウトカム

「こども食堂等居場所」につながった子どもたちが、食を通じて健康的（自己肯定感や他者への信頼を含む）な生活を送れるようになる

短期アウトカム

短期アウトカムを達成するための状態

（01）地域の「こども食堂等居場所」が充足し、その運営も安定している

（0101）「こども食堂等居場所」を支える企業（ヒト・モノ・カネ等）が集まる
（0102）地域に「こども食堂等居場所」を運営したいという人（組織・機関等）が増える
（0103）新型コロナウイルス感染拡大収束後も「こども食堂等居場所」が安心して活動できるようになる
（0104）「こども食堂等居場所」が生鮮食品を含む常温・冷蔵・冷凍の多様な食材寄付を受けられるようになる

（02）支援地域内で「こども食堂等居場所」が広く認知されるようになる

（0201）「こども食堂等居場所」のことを伝えてくれる人・機関が増えている
（0202）地域の商店や住民が「こども食堂等居場所」を理解し、協力的になる
（0203）「こども食堂等居場所」が望む社会資源（商店会や児童館、学校、学童、こどもクラブなど）につながることができる
（0204）地域住民が「こども食堂等居場所」を理解し、協力的になる

（03）「こども食堂等居場所」がこどもによって有益な場になる（そういった機能をしっかりともてるようになる）

（0301）「こども食堂等居場所」の活動者が十分なスキルを有している（ここでのスキルとは、こどもの話に耳を傾けるや色々な気づきを得られる、など様々）が多用な社会資源とつながることができる
（0302）地域に多様な「こども食堂等居場所」ができる（色々な人が参加できるような）
（0303）「こども食堂等居場所」が広い意味での「食育」のことも理解し、楽しい食卓を囲むきっかけをつくることができる

主な活動

- （010101）支援地域の「こども食堂等居場所」の状況を把握する（望む支援は何かなど）
- （010103）全国のサポートセンター同士のネットワークを構築し、企業からの支援についての情報交換を行う
- （010104）支援地域のハブとなるネットワークや団体と連携を行い、寄付物品が届く環境を整える
- （010203）食フェスタなどを開催し、「こども食堂等居場所」を始めたい、手伝いたい人向けの情報提供などを行う
- （010301）寄贈品の配分（企業等から寄贈品を受け付け、活動団体へ配布する）
- （010303）相談・情報提供（各活動団体と寄贈品や助成金の配布などを通じて、情報交換や関係性を構築し、有用な情報などを提供する）
- （030302）サポートセンターが「こども食堂等居場所」に出張調理教室を行い、こどもと一緒につくって、一緒に食べる

出口戦略

事業計画書に記載の持続可能性等を転載してください。

２．事後評価　実施概要

２-１．実施概要

①どんな変化をこの事業の重要なポイントと設定し評価を実施したのか

・主体的な活動であるこども食堂等居場所が、主体性を活かしたまま活動を継続することができ、こどもたちにとってより有益な場となるような支援ができているか。

②どんな調査で測定したのか

▼短期アウトカム０１「地域の「こども食堂等居場所」が充足し、その運営も安定している」の評価

（１）調査方法	（２）調査実施時期	（３）調査対象者	（４）分析方法
報告書P.2,5参照	・ヒアリング調査…2021年2月、12月 ・アンケート調査…2022年11月	ヒアリング調査：登録団体（こども食堂等運営者） アンケート調査：大阪府内のこども食堂等居場所	①活動年数や、中止した団体数の割合を他地域と比較する ②1年目より3年目の方が活動団体数が増えている ③気持ちよく活動しているという回答が多い

▼短期アウトカム０２「支援地域内で「こども食堂等居場所」が広く認知されるようになる」の評価

（１）調査方法	（２）調査実施時期	（３）調査対象者	（４）分析方法
報告書P.2,5参照	同上	同上	①つながったきっかけを把握する ②うまくつながったエピソードがたくさん集まる ③連携がうまくいったエピソードがたくさん集まる 日常の情報交換や、研修会で、参考になったという数や割合

▼短期アウトカム０３「『こども食堂等居場所』がこどもによって有益な場になる（そういった機能をしっかりともてるようになる）」の評価

（１）調査方法	（２）調査実施時期	（３）調査対象者	（４）分析方法
報告書P.2,5参照	同上	同上	①連携がうまくいったエピソードがたくさん集まる ②こども食堂での関わりを通じて、こどもによいきっかけがあったと活動者・こどもが思えるエピソードがたくさん集まる ③相談の数や内容とそれに対する対応

③調査結果の価値判断基準について

アウトカム１：1年目より3年目の方が活動団体数が増えている。中止した団体数＝3か所。
アウトカム２：2022年11月のアンケート（添付資料）から、「うまくつながった」「連携がうまくいった」エピソードがたくさん集まった。
アウトカム３：2022年11月のアンケート（添付資料）から、「連携がうまくいった」「こどもによいきっかけがあった」エピソードがたくさん集まった。

２-２．実施体制

内部／外部	評価担当役割	氏名	団体・役職
内部	評価報告書作成	隅田　耕史	アドバイザー
内部	調査	岡本　聡子	調査担当

3．事業の実績

3-1．インプット（主要なものを記載）

	項目	内容・金額	備考
	（1）人材（主に活動していたメンバーの人数や役割など）	内部：合計10人（代表、会計、ネットワーク、個別支援、企業担当、調査、広報、事務、運搬など） 外部：合計0人	
	（2）資機材（主要なもの）	冷蔵冷凍庫、運搬車両、PC	
	（3）経費実績 助成金の合計（円）	合計　23,698,864円 事業費：19,225,836円 （内訳　直接事業費：16,644,572円／管理的経費2,581,264円 評価関連経費：931,200円 コロナ対応緊急支援追加額：3,541,828円	
	①契約当初の計画金額（円）	21,556,000円	
	②実際に投入した金額と種類	（内訳　直接事業費：16,644,572円／管理的経費：2,581,264円）	
	（4）自己資金（円）		
	①契約当初の自己資金の計画金額	1,211,664円	
	②実際に投入した自己資金の金額と種類	（内訳　直接事業費：1,750,460円／管理的経費：0円）	
	③資金調達で工夫した点	休眠預金以外の助成金の獲得、企業等への寄付依頼、クラウドファンディング	

3-2．活動とアウトプットの実績

ロジNo	アウトプット(4桁)	指標	目標値	達成時期
0101	**こども食堂等居場所を支える企業（ヒト・モノ・カネ等）が集まる**	①支援をしてもらったこども食堂等居場所の数 ②支援をした企業等の数 ③支援をつなぐハブの数	①団体の数や割合や頻度が１年目より３年目の方が増えている ②１年目より３年目の方が増えている ③１年目より３年目の方が増えている	2022年度末

実績値

①１年目登録団体０団体⇒１８６団体（２０２３年１月時点）
②１年目支援企業数０社⇒９７社（うち継続企業５７社）
③１年目５カ所⇒３年目ハブ拠点市内６カ所に加えて八尾市、泉佐野市と連携

ロジNo	アウトプット(6桁)	実績値詳細・主な行動
010101	支援地域のこども食堂等居場所の状況を把握する（望む支援は何かなど）	**●こども食堂等居場所の状況を把握するためのヒアリング調査・アンケート調査の実施** 2021年2月、12月に登録団体を対象にヒアリング調査を実施。また、22年11月は大阪府内のこども食堂等居場所へアンケート調査を実施。各調査後には食フェスタにて、こども食堂の活動状況や望む支援について報告を行った。詳細は報告書参照 **●他地域のサポートセンターとのネットワーク構築** 2020年度：大阪の食フェスタに福島・北九州・那覇の実行団体が集まり、子ども支援に関する研修、団体視察等を資金分配団体と企画開催した。そのほか、福島・北九州・那覇に１回ずつ訪問し、当該地域のこども食堂等居場所との意見交換に参加したり居場所の視察を行った。 2021年度：オンラインを中心に資金分配団体が開催する合同ミーティングに参加し、他団体の活動状況や支援ノウハウの情報交換を行った。 2022年度：他地域の食フェスタにて活動報告を行い、事業終了後以降の連携について情報交換を行った。 **●ハブ拠点の設置・寄付物品の受け入れ態勢の確保** コロナ追加助成を受け、大阪市内６カ所に冷蔵冷凍庫を設置貸与するほか、運搬車両を購入し市内の団体へ寄贈物品を分配できるようにした。
010102	企業に「こども食堂等居場所」への支援を依頼したり、ノウハウや情報を共有するための「企業とのマッチングセミナー」を開催したりする	
010103	全国のサポートセンター同士のネットワークを構築し、企業からの支援についての情報交換を行う	
010104	支援地域のハブとなるネットワークや団体と連携を行い、寄付物品が届く環境を整える	

3-2．活動とアウトプットの実績

ロジNo	アウトプット(4桁)	指標	目標値	達成時期
0102	**地域にこども食堂等居場所を運家したいという人（組織・機関等）が増える**	新しくできた「こども食堂等居場所」の数 こどもへの食提供を新しく始めた居場所の数	①②こども食堂の数、が１年目よりも増加し、今後も減少しない見通しがある	2022年度末

実績値

こども食堂の数　大阪市内１５５ヵ所（令和元年６月時点）⇒２４１ヵ所
大阪府４１４ヵ所（同上、大阪府HPより）⇒６６９ヵ所

ロジNo	アウトプット(6桁)	実績値詳細・主な行動
010201	こども食堂等居場所をやりたい人（組織・機関等）の見学会を行う	**●こども食堂立ち上げ支援** 週４回相談窓口を開設し、電話やメールにてこども食堂の新規立ち上げや運営相談対応を行った。寄贈物資の対応等が増えたため、2021年11月より週５日開所へ変更した。見学会はコロナ禍のため実施することができなかった。 **●食フェスタの開催** 2020年11月、22年4月、22年12月に食フェスタを開催し、約150団体、約250人が参加。 **●行政等との広報連携** 2022年度、大阪府「NPO等活動支援によるコロナ禍における社会課題解決事業」に採択され、クラウドファンディングを実施、2,167,000円の寄付を受け取ることができた。大阪府の事業として実施したことにより、多くの市民やステークホルダーに当団体の活動を知ってもらうとともに応援してもらう機会になった。また寄付だけでなく、寄贈物品の配送等の申し出をタクシー会社や運送会社から受けることができた。また、大阪府庁内の、福祉部にも紹介を受ける機会になった。 また、近畿農水局を通じてフードバンクの登録を行ったことにより、多くの企業から寄贈の申し出を受けるようになった。また、大阪府の環境農林水産部からも様々なコーディネートの機会が増えた。
010202	行政のHPや地域のSNS、Facebookを活用して「こども食堂等居場所」の広報を行う	
010203	食フェスタを開催し、こども食堂等居場所を始めたい、手伝い人向けの情報提供等を行う	

3-2．活動とアウトプットの実績

ロジNo	アウトプット(4桁)	指標	目標値	達成時期
0103	**新型コロナウイルス感染拡大終息後もこども食堂等居場所が安心して活動できるようになる**	①こども食堂等居場所が長く続けられている ②こども食堂等居場所が支援地域内に十分な数存在している ③こども食堂等居場所の運営者が気持ちよく運営できている	①活動年数や中止した団体の割合を他地域と比較する ②１年目より３年目の方が活動団体数が増えている	2022年度末

実績値

登録団体の活動年数の平均値：4.6年
活動団体の数：186

ロジNo	アウトプット(6桁)	実績値詳細・主な行動
010301	寄贈品の配分（企業等から寄贈品を受付、活動団体へ配布する）	●寄贈品の分配実績：682トン 企業からの支援物資のほか、農水省補助事業・厚労省補助事業等を活用し寄贈品の分配を行った。 ●助成金の配分 2020年度：公益財団法人キユーピーみらいたまご財団より202万円の助成を受け、大阪市内13の居場所へ助成を実施。緊急事態宣言発令後、長期休校の中、開催を続けるこども食堂には、コロナをきっかけに困窮している子育て世帯が多く見受けられた。増えつつある貧困家庭に、近隣の飲食店と連携してお弁当を届けるために、助成金を活用した。 ●相談・情報提供 （各活動団地と寄贈品や助成金の配布等を通じて、情報交換や関係性を構築し、有用な情報等を提供する） 上記に関連した活動報告（週5回、団体さんがサポセンに物資を取りに来て会話をするなど）
010302	助成金の配分（企業等から助成金を受付、活動団体へ配布する）	
010303	相談・情報提供（各活動団地と寄贈品や助成金の配布等を通じて、情報交換や関係性を構築し、有用な情報等を提供する）	

3-2．活動とアウトプットの実績

ロジNo	アウトプット(4桁)	指標	目標値	達成時期
0104	**こども食堂等居場所が生鮮食品を含む常温・冷蔵・冷凍の多様な食材寄付を受けられるようになる**	生鮮食品を含む冷凍・冷蔵品の寄贈食品・ロス食品の利活用実績ついて、 ①マッチングの物量 ②提供団体するの変化	市内６カ所の冷凍・冷蔵庫設置場所を活用し、冷凍・冷蔵食品の寄贈と提供を継続的に行うことができる	2022年度末

実績値

寄贈品の分配実績：６８２トン
提供食堂数：１８６団体

ロジNo	アウトプット(6桁)	実績値詳細・主な行動
010401	スーパーや卸売市場、商店など食材を定期的に提供してくれる食品関連会社への営業	**●定期的な食材・お弁当支援のマッチング　※詳細は外部との連携スライド参照** カネハツ食品（2021年8月より、週１回程度） コープおおさか（2020年9月より、月2～3回） 吉野家（2021年4月より、月１回） 王将フードサービス（21年夏・冬休み、22年春・夏・冬休み、23年春休み）
010402	こども食堂団体が必要とする食材を受け取ることができるための区および複数区単位のネットワーク構築	**●区ネットワーク構築支援** 勉強会への出席（年4回程度） 新規ネットワーク立ち上げ支援3件 区ネットワークが主催するイベントの開催支援4件　など
010403	食材保管倉庫を貸与してくれる企業の新規開拓	**●食材保管倉庫の連携　※詳細は外部との連携スライド参照** 北部市場運送

3-2．活動とアウトプットの実績

ロジNo	アウトプット(4桁)	指標	目標値	達成時期
0201	**こども食堂等居場所のことを伝えてくれる人・機関が増えている**	学校と「こども食堂等居場所」の連携がうまくいったエピソード	運営者と学校関係者がこどものことを話し合える場がある	2022年度末
0202	**学校以外の様々なところがこども食堂等居場所のことを伝えてくれるようになる**	学校以外の様々なところと「こども食堂等居場所」の連携がうまくいったエピソード	連携がうまくいったエピソードがたくさん集まる	

実績値

学校機関との対話を行った機会や場づくりに貢献した活動：コロナ禍になり学校からこども食堂に対して個別支援の相談があった後、個別支援用の食材や生活用品を即時提供することで、各活動団体が学校からの支援依頼に応えることができるようになった。
学校以外の様々なところと居場所の連携がうまくいったエピソードの収集状況：区役所等からも上記と同様に、個別支援の依頼があった際に即時応えられる支援を行った。
区単位のネットワークでイベントを開催する際に、食料品を一定量届けることで、催しの開催を支援し、ネットワークづくりに貢献した。

ロジNo	アウトプット(6桁)	実績値詳細・主な行動
020101	公聴会や教育委員会などに出向いて、こども食堂等居場所の状況を伝え、連携を進める支援を行う	**●学校との連携について** 新型コロナウイルス感染拡大に伴い学校の一斉休校が行われこども食堂等居場所が学校からの依頼を受けて食品・物資を持参して居宅を訪問する等、外部要因も影響して学校とのつながりが生まれている団体が増えている状況だった。 **●個別支援やSSWとの連携に関する講義による伝播** 2022年12月に実施した食フェスタでは、スチューデントサポートフェイスの谷口氏を講師に招き、子ども若者の包括支援のための福祉機関や学校、SSW等専門員との連携について講義をいただいた。 ●定時制高校への食料支援 第二工芸高校のSSWと連携し、常温保存ができ即時に喫食できる食料を提供するようになった。生徒が集い、交流する場の開設支援となった。 ●北御堂フードパントリー開催の協力 大阪市中央区社会福祉協議会が中心となった中央区子どもの居場所連絡会が主催するフードパントリーの物資支援や運営協力を行い、こども（親子）だけでなく社会人等も対象にフードパントリーを広く実施し、コロナ禍でのこども食堂等居場所の活動認知に貢献することができた。 ※ただし、コロナの影響により催事への参加等を通じた広報は当初予定していたほど取り組めなかった。
020102	こども支援員、PTAや民生委員、スクールソーシャルワーカーなどの支援者と「こども食堂等居場所」の連携が進むような働きかけを行う	
020201	FacebookやTwitter、Instagramを活用してこども食堂等居場所の広報を行う	
0201202	こども（親子）向けのイベントを開催したり、参加したりして広報を行う	

3-2．活動とアウトプットの実績

ロジNo	アウトプット(4桁)	指標	目標値	達成時期
0203	**こども食堂等居場所が望む社会資源（商店会や児童館、学校、学童、こどもクラブなど）とつながることができる**	こども食堂等居場所と望む社会資源との連携がうまくいったエピソード	連携がうまくいったエピソードがたくさん集まる	2022年度末
0204	**地域住民が「こども食堂等居場所」を理解し、協力的になる**	「こども食堂等居場所」と地域住民との連携がうまくいったエピソード		

実績値

連携がうまくいったエピソードの収集状況：2021年12月のヒアリング調査、2022年12月のアンケートで、学校や役所等と連携がうまくいっているエピソードを多数集めることができている。

ロジNo	アウトプット(6桁)	実績値詳細・主な行動
020301	自治体の支援状況をしらべ、発信する	**●食フェスタ等を通じた情報交換づくり** 20年11月、22年4月に開催した食フェスタでは、こども食堂等居場所同士が活動に関する悩みなどを共有相談できるような交流時間を設けた。その中で要対協との連携の事例なども紹介することができた。 その他、外部主催イベントでの運営協力など： 公益財団法人キユーピーみらいたまご財団が主催する地域の居場所づくりサミットにて、21年/22年度各２回こども食堂等居場所に関心のある方を含む団体運営者との交流会にファシリテーターとして参加し、各地域の好事例の共有に貢献した。 また、20年11月にはサポートセンターを中継拠点としてオンラインにて事例発表を行い、サポートセンターの取り組みを紹介することができた。 **●地域住民を含む行政や福祉機関からの個別支援の相談対応（直接支援の実施について）** 対応件数：約100件
020302	こども食堂等居場所が行うイベントに地域の様々な機関に参加してもらうように支援する	
020303	こども食堂等居場所間で実践事例を共有し、各活動にいかしてもらうよう働きかける	
020304	こども食堂等居場所が要対協と円滑に連携できるよう、双方への周知や働きかけの支援を行う	
020401	一般の地域住民も参加しやすいようなイベントを開催したり、地域のイベントに参加して地域住民への啓発や広報を行う	
020402	FacebookやTwitter、Instagramを活用してこども食堂等居場所の広報を行う	
020403	サポートセンターに地域住民からの「相談窓口」を設置する	

3-2．活動とアウトプットの実績

ロジNo	アウトプット(4桁)	指標	目標値	達成時期
0301	**こども食堂等居場所の活動者が十分なスキルを有している（ここでのスキルとは、こどもの話に耳を傾けるや色々な気付きを得られる、等様々）**	スキルのある、ない活動者がいるかどうか	参加しているこどものことについて話し合える場がある	2022年度末

実績値

参加しているこどものことについて話し合える場の創出：20年度2回、21年度0回、22年度4回、その他サポートセンターでの物資受け渡しの際にこどもの様子などを聞き取ったり、22年4月からは個別支援相談に関する窓口対応も行う中で186件の相談事案があった。

ロジNo	アウトプット(6桁)	実績値詳細・主な行動
030101	サポートセンターに運営相談窓口を開設し、日常的に相談対応（電話・メール・webミーティング等を含む）ができるようにする	**●サポートセンターの開設状況** 事業開始時は週３回10～15時の開設であったが、登録団体が増え物資の受け渡しや活動団体からの問い合わせも増えたため現在は週５回開設している。 現在は事務局員を置いて運営委員や個別支援アドバイザーのサポートのもを対応している **●ヒアリングの実施結果詳細に関しては添付資料を参照** 21年2月、12月にヒアリング調査を行った：（2020年度）'21年2月……54カ所 （2021年度）'21年12月……57カ所 対象：こどもの居場所サポートおおさかの登録団体 内容：活動をしている中での困りごとやこどもの変化、支援を受けている機関など **●研修会の開催実績** 食フェスタ20年11月、22年4月、22年12月開催。活動団体が何を思って、どのように活動しているのか、その時点での等身大の声を発信するとともに、参加者同士で意見交換を行い、関係づくりができる場づくりを意識して実施した。また、全国各地の関係者にも参加してもらうことで、全国的な一体感を醸成する機会づくりを行った。 また、休眠預金事業とは別事業で実施していた研修会などについても登録団体へ案内し参加してもらったり、資金分配団体が主催する研修会への参加を呼び掛けた。
030102	こどもを対象にヒアリングを行い、こども食堂等居場所に期待することを把握する	
030103	こども食堂等居場所を対象にした研修会を開催する（食育、子育て支援など）	
030104	こども食堂等居場所を対象にした個別訪問等を実施し、各こども食堂の状況に合わせた支援を行う	

3-2．活動とアウトプットの実績

ロジNo	アウトプット(4桁)	指標	目標値	達成時期
0302	**地域に多様なこども食堂等居場所ができる（色々な人が参加できるような）**	各こども食堂等居場所の強み 区内のこども食堂等居場所でいい連携をとることができているか	地域内のこども食堂と居場所が互いの強みを共有し、連携できる場がある	2022年度末

実績値

22年事後評価にて実施したアンケート調査では、連絡を取ったり相談ができるこども食堂が平均3.7団体と繋がっているのに対して、サポートセンターが介入していない大阪府内のこども食堂は2.9団体であった。また10か所以上つながりのある団体が20団体（13.8%）と8団体（5.9%）と有意に差があった。食フェスタ等でグループワーク等も交えながら交流を促進したり、各区域単位のネットワーク活動の形成支援等の影響が見受けられる。結果、食材やボランティア、個別支援や運営の相談等を互いにしたり、先輩団体が新しい団体をサポートする関係ができていっている。

ロジNo	アウトプット(6桁)	実績値詳細・主な行動
030201	食フェスタなどを開催し、多様なこども食堂があることや、それぞれがいい連携ができている事例等を紹介する	**●食フェスタで登壇いただいた好事例について** ・こどもの居場所まーる　…学校や家庭に居場所をつくりづらいこどもたちに、いつでも相談に来ることのできる関係づくりを実施。スタッフで役割分担し、こどもに対してと保護者に対しての両面からサポート ・お茶の間わいわい　…コロナ禍でも少人数に限定して支援。区役所からの紹介に応じ、コアスタッフで支え合いながら支援 ・こども食堂まなび　…コロナ禍でも、3交代制にしたり、屋外スペースを有効に使うなど感染対策を行い、参加者にも理解と協力を求めながら、できるかぎり会食活動を継続 **●区域単位のネットワーク形成支援、区域同士のつながりの場づくり** ・天王寺区でネットワークが形成されるプロセスに参画した。 ・中央区、西成区、東成区でパントリーやイベント等を開催する際の物資提供や当日のお手伝いを行った。 ・八尾市の母子生活支援施設がハブとなり、八尾市内でネットワークをつくる機会を提供した。 ・藤井寺市の特別養護老人ホームがハブになってネットワークをつくる相談を行っている。 **●集団調理用器具の貸し出しや物資支援によるイベント開催支援** コロナ禍でなかなかイベントを開催できる団体は限られていたが、夏祭りやバーベキューなどを行う際の物資支援やたこ焼き道具の貸し出しなどを行い、開催の後方支援を行った
030202	こども食堂等居場所同士のネットワーク形成（新たな区のネットワーク設立の支援など）や、ネットワーク同士をつなぐ（各区のネットワーク同士の交流会などを呼びかける）	
030203	こども食堂等居場所がイベントを実施するときに支援する	

3-2．活動とアウトプットの実績

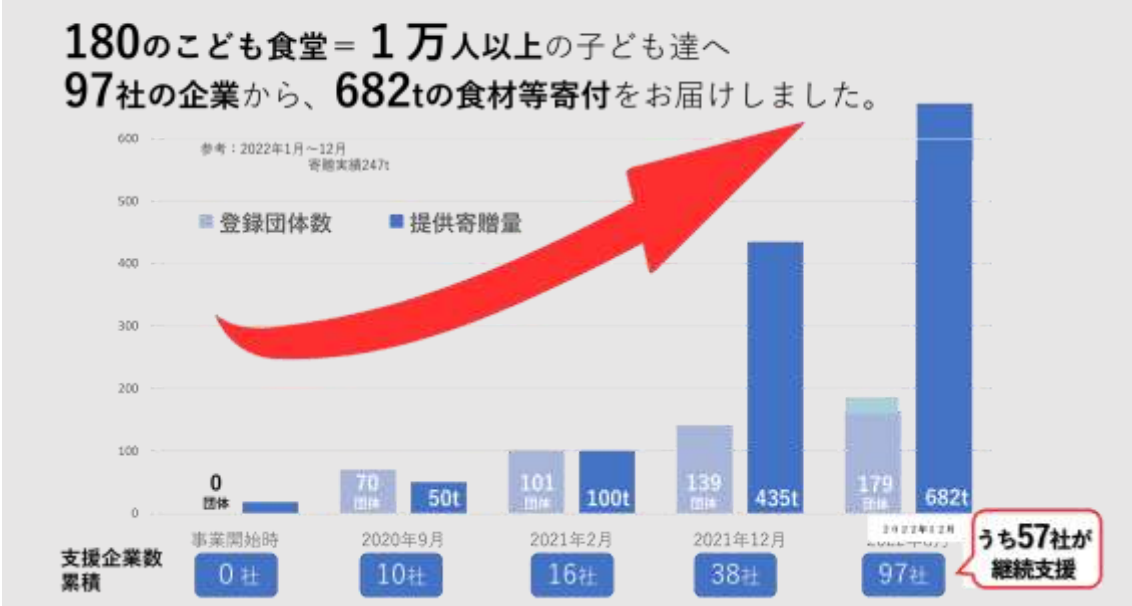
ロジNo	アウトプット(4桁)	指標	目標値	達成時期
0303	**こども食堂等居場所が広い意味での「食育」のことも理解し、楽しい食卓を囲むきっかけをつくることができる**	関わっているこどもたちの経年の変化のエピソードを集める	コロナ禍以後もそういった食の機会が提供されているエピソードがある	2022年度末

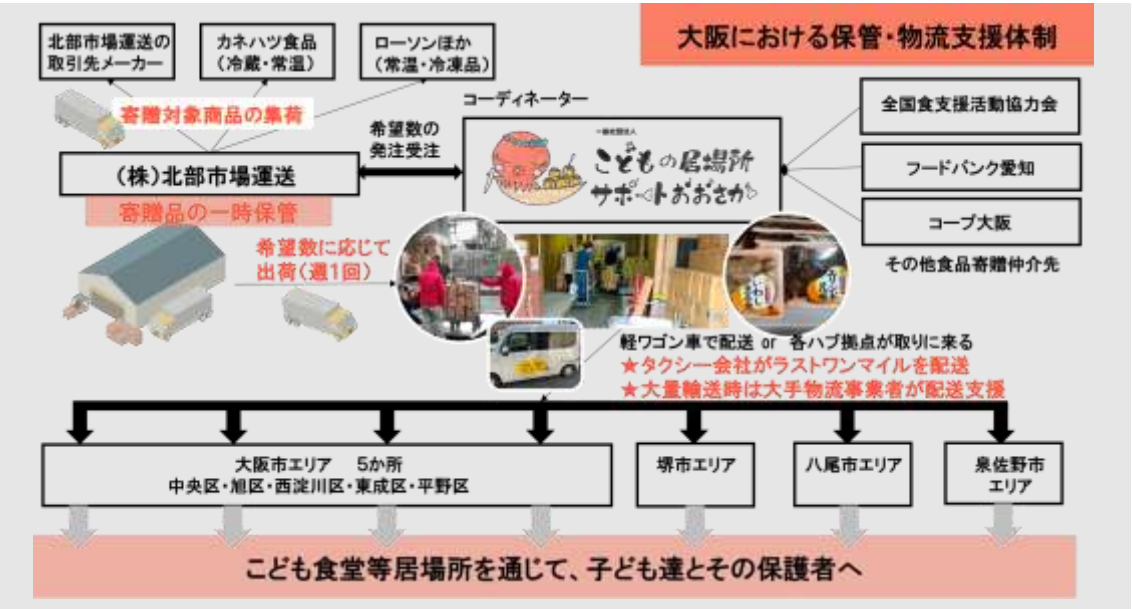
実績値

こどもたちの食育等の観点に関する変化　エピソード（抜粋）：「野菜など色んな食材をたくさん食べるようになってきた」「後片付けをすすんでするようになった」
会食に取り組んでいる団体数：178団体（2022年11月調査、回答289団体のうち）

ただし、コロナ禍社会の恒常化につき、現在も食の機会が提供されているかどうかで判断した

ロジNo	アウトプット(6桁)	実績値詳細・主な行動
030301	こども食堂等居場所を対象に、食育研修を行う	**●出張料理教室の開催** 下記情報を最新版に更新してください。 〇「たこ焼きプロジェクト」（2021年12月、2022年4月、5月、7月） 〇食育のための出前料理教室の開催が、コロナの影響で遅れていたが、2023年10月、11月に実施した。 〇オンライン料理教室「テレクック」（2021年6月、9月）に参画。 **●そのほか、アウトプット達成のために行った活動** 〇製薬会社の出前教室による衛生研修を調整。
030302	サポートセンターがこども食堂等居場所に出張調理教室を行い、こどもと一緒につくって、一緒に食べる	
030303	こども食堂等居場所をやりたい人の見学会を行う	
030304	こども食堂等居場所の好事例を集約・編集し、紙媒体およびインターネット上で閲覧できるようにし、周知して広める	





企業連携

寄贈

大量保管
(冷凍・冷蔵)

運送
(ロジ拠点)

運送
(ハブ拠点)

運送
(こども食堂)

包装品回収

出前料理教室　2回開催

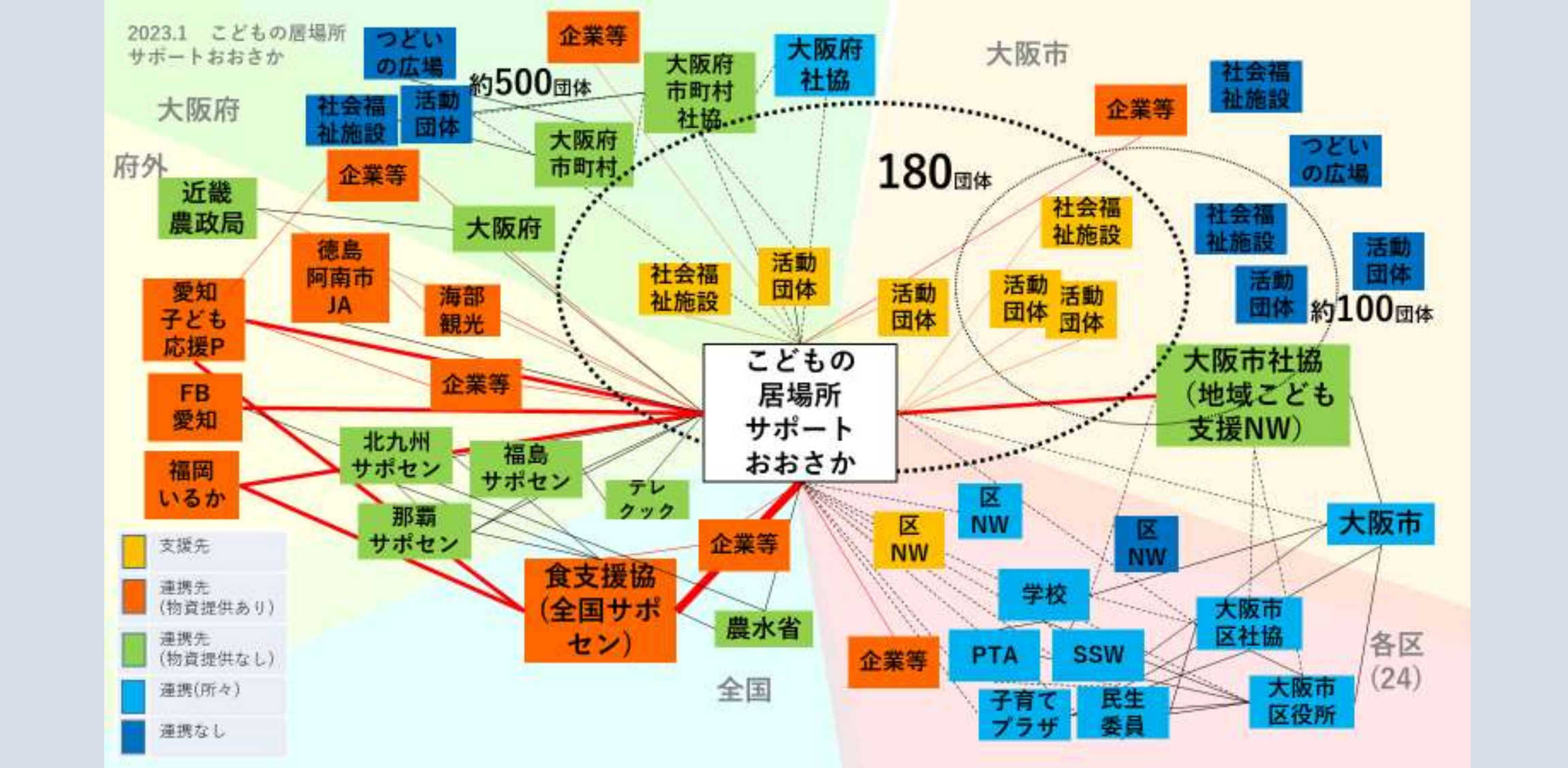
たこ焼きプロジェクト　4回開催

食でつながるフェスタおおさか　3回開催

〇ヒアリング
・2021年2月）…54件
・2021年12月　…57件
〇アンケート
・2022年11月　…289件/669件

調査（ヒアリング2回、アンケート1回）

3-3．外部との連携の実績



3-3．外部との連携の実績

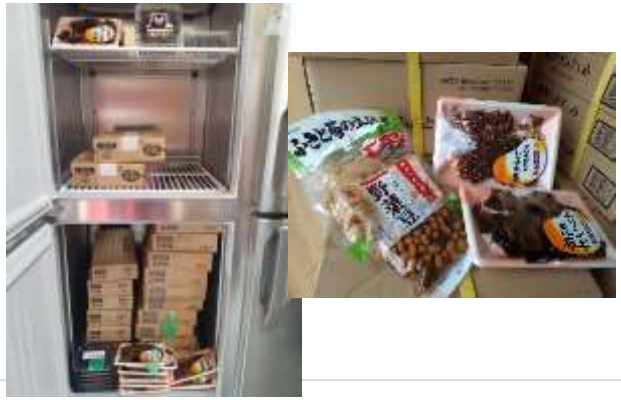
外部との連携の実績（事例）

1：株式会社北部市場運送による冷凍・冷蔵保管と週1回の定期便（無償）

・運送会社の冷凍・冷蔵保管庫の一画で、当団体に届く様々な企業からの寄贈品を一時保管。毎週木曜日に冷凍・冷蔵車で専用の定期便を運行。
・企業が、本来事業の強みを社会貢献に展開している。

2：カネハツ食品株式会社による週1回の寄贈と業界団体への働きかけ（無償）

・週に1回、惣菜を提供。
・同業種にも案内し、多数の企業が、寄贈提供。



3：吉野家からの弁当寄贈マッチング（無償）

・全国食支援活動協力会からの紹介で、沖縄で試験実施後、大阪でも展開。
・月に1回120食×3店舗から、継続提供。

3-3．外部との連携の実績

外部との連携の実績（事例）

４：JA阿南（徳島県）の野菜（無償）を海部観光バス（貨客混載）が配送

・徳島県でのロス野菜を大阪に配送。
・コロナ禍の規制緩和により、貨客混載が実現。

毎日新聞（大阪版）2021.8.10

５：アサヒロジ株式会社　ロジ拠点に届いた寄贈物資をハブ拠点に配布（無償）

・これまではスタッフが運んでいた。
・ロジ拠点からこども食堂等へのラストワンマイルへの支援を広く呼びかけた所、支援の申し出を受ける。

６：西成清掃協同組合　ゴミの引き取り（無償）

・寄贈物品のパッケージ等の大量の廃棄物を無償で引き取り。

４．アウトカムの分析

４-１．アウトカムの達成度
（１）アウトカムの計画と実績

〇中長期アウトカム
「こども食堂等居場所」につながった子どもたちが、食を通じて健康的（自己肯定感や他者への信頼を含む）な生活を送れるようになる

・短期アウトカム０１「地域の「こども食堂等居場所」が充足し、その運営も安定している」

・短期アウトカム０２「支援地域内で「こども食堂等居場所」が広く認知されるようになる」

・短期アウトカム０３「『こども食堂等居場所』がこどもによって有益な場になる（そういった機能をしっかりともてるようになる）」

※事前評価時の短期アウトカム：
（変更した場合は元の短期アウトカムを記載してください

アウトカム1　《「こども食堂等居場所」が充足し、その運営も安定している》の達成状況

指標：①「こども食堂等居場所」が長く続けられている
②「こども食堂等居場所」が支援地域内に十分な数存在している
③「こども食堂等居場所」の運営者が気持ちよく運営している

初期値・初期状態

・なし

目標値・目標状態

①③支援地域内の「こども食堂等居場所」が今後も減少しない見通しがある
②支援地域内の「こども食堂等居場所」が今後も減少しない見通しがある

目標達成時期

・事業終了時

これまでの活動をとおして把握している変化・アウトカムの発現状況

・3年間での中止団体…3
・大阪市内の活動団体　…約120　→約220
・大阪府内の活動団体　…約500　→669
・登録団体　… 0　→180
・ヒアリング　…2021年2月54件、2021年12月57件　→課題を受け止めながらも、やりがいをもって活動している。
・アンケート　…2022年11月289件　→課題を受け止めながらも、やりがいをもって活動している。
※　活動団体の主体性と多様性を尊重した、中間支援の必要性

アウトカム2　《支援地域内で「こども食堂等居場所」が広く認知されるようになる》の達成状況

指標：①つながったきっかけを把握する
②うまくつながったエピソードがたくさん集まる
③連携がうまくいったエピソードがたくさん集まる
④日常の情報交換や、研修会で、参考になったという数や割合

初期値・初期状態	これまでの活動をとおして把握している変化・アウトカムの発現状況
・なし	・ヒアリング　…2021年2月54件、2021年12月57件　→コロナ禍を契機に、役所や学校等とつながりを深めているエピソードが増える。 ・アンケート　…2022年11月289件　→関係機関と連携し、こどもや家庭の支援に取り組んだいる。 ※　連携がうまくできている団体と、うまくいっていない団体の両方の声がある。こどもの居場所サポートおおさかと連携している団体は、他の関係機関や、こども食堂等とのつながりが多く、それらを活かして活動に取り組んでいる。今後、中間支援団体として、他の関係機関やこども食堂等をつなげていく機能が、一層求められている。
目標値・目標状態	
①②③運営者と望む社会資源が話し合う場で、こどもへの周知状況が把握でき、相談ができる ①②運営者と望む社会資源がこどものことを話し合える場がある	
目標達成時期	
・事業終了時	

アウトカム3　《「『こども食堂等居場所』がこどもによって有益な場になる（そういった機能をしっかりともてるようになる）」》の達成状況

指標：①運営者とこどもとの十分な関わりがあると判断できるエピソード
②こどものいい変化のエピソード
③「こども食堂等居場所」には何を楽しみに来ているのか
④楽しく食事ができているか

初期値・初期状態	これまでの活動をとおして把握している変化・アウトカムの発現状況
・なし	・ヒアリング　…2021年2月54件、2021年12月57件　→こどもや家庭とのよい関りのエピソードを聞くことができる。 ・アンケート　…2022年11月289件　→こどもや家庭とのよい関りのエピソードを数多く聞くことができる。 ※　こども食堂等が「意欲」「居場所」「交流」「参加」「支援」「食育」の6つの効能を有することがわかった。活動団体によって、その指向性は様々である。また、活動の経過にともなって、変化したり、多機能性も有するようになる。 コロナ禍で拡大した、配食やフードパントリーの活動には、つながりを維持したり、拡大したり、家庭に入るきっかけづくりになったりするといったプラス面がある一方、関係性が深まらず、負担感が増すといったマイナス面もあり、意図をしっかりと持ち、細やかな工夫をすることが重要と考えられる。
目標値・目標状態	
①参加しているこどものことについて、話し合える場がある ①②③④こどもが食事を「楽しい」と思えることが多くなる	
目標達成時期	
・事業終了時	

アウトカム達成度についての評価

事業の短期アウトカムの評価	左記のように評価した理由
アウトカム１に関して ☑短期アウトカムの目標値を上回って達成できている □短期アウトカムの目標値が達成できている □短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている □短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する	**・活動を中止した団体がわずかであるのに対し、想定以上に活動団体が増え、登録団体も増えており、活動へのモチベーションも高く、活動を支援する仕組みも整ってきているため**
アウトカム２に関して □短期アウトカムの目標値を上回って達成できている ☑短期アウトカムの目標値が達成できている □短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている □短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する	**・各こども食堂等を利用するこどもの数が概ね増えている ・行政や学校等から紹介されたり、利用しているこどもが連れてきたりというエピソードを数多く聞くことができている ・こども食堂同士のつながりやネットワークが増加している**
アウトカム３に関して ☑短期アウトカムの目標値を上回って達成できている □短期アウトカムの目標値が達成できている □短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている □短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する	**・こどもの「意欲」「居場所」「交流」「参加」「支援」「食育」の6つの効能があったというエピソードをたくさん聞くことができている ・活動者の意識やモチベーションが高まっているエピソードをたくさん聞くことができている ・こども食堂への情報提供や支援をする仕組みが整ってきている ・サポートおおさかに登録する団体が増加し続けている**

４-２．波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

【生まれている波及効果（想定外、波及的・副次的効果）】

評価小項目）支援地域が地域全体でこどもを育てられるような地域になる

考察）アンケート（2022年11月）から、こども食堂等の活動が、こどもや保護者、活動に関わる人々に対して「意欲」「居場所」「交流」「参加」「支援」「食育」の6つの効能を持つことがわかった。また、こどもの居場所サポートおおさかに登録する団体が、相談できる団体数の平均が3.7か所で、関わりのない団体の2.9か所に比べ、有意に多かった。登録する団体同士が、互いのノウハウを伝えあい、課題を相談し合うことで、上記の効能を引き出し合う関係も構築されている。
活動団体数は増え続けており、活動団体を支援する体制も構築されてきていることから、地域全体でこどもを育てられる地域に進展していると考えられる。

　また、副次的効果として、支援地域に対してだけでなく、大阪での取り組みから得たノウハウや知見が、福島、北九州、那覇といった同じ実行団体に対してや、全国食支援活動団体協力会を通じて、全国の他のこども食堂等や、こども食堂等を支援する中間支援組織にも波及することができた。

4 - 3．事業の効率性

【事業の効率性について】

評価小項目）休眠預金事業の経費を無駄なく使用することができたか

考察）こども食堂等を支援するにあたって、その活動に直接予算をつけるのであれば、今回の予算では、数十団体で一杯になってしまうだろう。しかし、中間支援組織へ助成することで、より多くのその10倍近くの活動団体を支援することができ、運営ノウハウを集め、伝えることができ、活動団体同士のネットワークもつくることができている。直接の活動団体へ助成するよりも、中間支援組織へ助成する方が効率性が高く、効果も高いと考えられる。

当団体の運営体制は、専門性のある常勤職員を1名置くという体制をとらなかった。様々な専門性や当事者性を持つ者が運営委員として関わり、各担当を受け持つことで、同じ人件費を活用しながらも、幅の広い活動を行うことができた。

5．成功要因・課題

中長期アウトカム

「こども食堂等居場所」につながった子どもたちが、食を通じて健康的（自己肯定感や他者への信頼を含む）な生活を送れるようになる

	アウトカム	要因	学び・課題
社会課題解決に貢献したアウトカム	アウトカム３こども食堂等居場所がこどもにとってよいきっかけの場になる **「意欲」「居場所」「交流」「参加」「支援」「食育」の6つの効能をもつこども食堂等を有効に支援することができた。**	主体的な活動であるこども食堂等の活動は多様なものである。その主体性と多様性を尊重する風土と仕組みが重要である。行政からの委託や補助で、こども食堂等の活動を支えようとすると、そこが矛盾してしまうように思われる。こども食堂等の活動を、民間の中間支援組織が支えていくという仕組みが、最も活動団体の主体性と多様性を尊重することができると考えられる。	民間の中間支援組織が、運営を継続できる仕組みづくりが必要である。
達成が困難であったアウトカム	アウトカム２こどもがこども食堂等居場所につながることができる **役所や学校、こども同士を通じて、こどもが、こども食堂につながることができているが、まだつながることのできていないこどもや家庭がある。**	つながることができ、つながりを継続することができれば、こども食堂はこどもに対して一定の効果を果たすことができる。しかし、つながることができなければそれはできない。	つながるためには、今まで以上に、活動団体の数が増え、多様性が広がることで、つながるチャンスを増加することができる。また、こども食堂の効能を発信することも重要である。また、各団体の意識の向上も重要である。

6．組織基盤強化の分析

【組織基盤強化の分析について】

評価小項目）
・自己資金の調達状況
・運営委員会方式が事業推進にあたって有効に機能し、互いの強みを生かした運営ができているか

考察）
・判断方法として、寄付や助成金の獲得、クラウドファンディング等多様な財源によって自己資金を調達できたかを設定した。当初の予算において、事業3年目に設定した金額に対しては、大きく上回って達成することができた。
寄付に関しては、単発での寄付のほか、企業の一部商品の売上げに対して、一定割合を4半期ごとに継続で寄付してもらうこともできるようになった。また、企業内に設置している自動販売機の売上げの一定割合を継続して寄付いただく話もまとまっている。
・過去４回の「食でつながるフェスタ」を実行委員会形式で開催した経験がもととなり、支援対象となる活動に従事しているメンバー、活動を支援する中間支援の経験のあるメンバーが運営委員となり、運営会議で議論を重ねて進めていくとともに、各活動の担当者による分担制をとったことが概ね機能した。

学びと課題）
・企業への寄付依頼に関しては、福島のこども食堂サポートセンターが、NPO法人として、多くの企業から寄付を受け取ることができ、年間700万円以上を継続できており、2023年から、指導してもらうことになった。
・こども家庭庁創設にともなって、都道府県域の中間支援組織に対しての予算枠がつくられていることから、大阪府との交渉を継続して行っていく。

7．結論

7-1．事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（1）事業実施プロセス					○
（2）事業成果の達成度					○

上記を選択した理由

（1）事業実施プロセス
・過去４回の「食でつながるフェスタ」を実行委員会形式で開催した経験がもととなり、支援対象となる活動に従事しているメンバー、活動を支援する中間支援の経験のあるメンバーが運営委員となり、運営会議で議論を重ねて進めていくとともに、各活動の担当者による分担制をとったことが概ね機能した。コロナ禍という未曽有の状況の入口で、中間支援活動を始めると風呂敷を広げたタイミングとなり、多くの支援を受け、そのことが実績となり、雪だるま式に支援や信頼を得ることができた。
（2）事業成果の達成度
・アンケート（2022年11月）から、こども食堂等の活動が、こどもにとって有益な活動であることを実証した。また、こども食堂等に対して、サポートセンターが実施する中間支援も有効であることがわかった。フードバンク機能に関しては、保管や運送体制の基盤や、適切に受け取り、配ることのできるノウハウを培うことで想定以上に機能した。また、フードバンク機能が土台にありつつ、多様なこども食堂の活動を尊重した個別の相談支援を行うことで、より効果的な支援を行うとともに、多くの知見を蓄え伝播するフィードバック効果を持つことができた。

7-2．事業実勢のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

事業実施の妥当性について、「課題やニーズの適切性」「課題やニーズに対する事業設計の整合性」「実施状況の適切性」「成果の達成状況」のすべてを振り返り、重要と思われる点や特筆すべき点を根拠として自由記載してください。

中長期アウトカムを「『こども食堂等居場所』につながった子どもたちが、食を通じて健康的（自己肯定感や他者への信頼を含む）な生活を送れるようになる」と、設定した。
2022年11月のアンケート（添付資料）では、289団体から回答を得て、多くの自由記述から、上記に関連するエピソードを多数受け取ることができた。そして、こども食堂等の活動が「意欲」「居場所」「交流」「参加」「支援」「食育」の6つの効能を持つことを、確認することができた。
こども食堂等の活動を、適切に支援することで、上記の効能が広がっていく。
同アンケートからは、こども食堂等が「今後、取り組んでいきたいことや問題の解決が必要となっている事柄」について、「資金」 60.6%、「ボランティア」 43.6%、「地域資源とのつながり」42.2%、「食材」40.1%、「広報」31.8%と続いていた。
これらの課題認識は、当初計画においても認識されていた通りであった。同アンケートの分析から、活動開始時期が、コロナ禍以前であるか以降であるか、当団体に登録しているかどうかによって、課題認識や状態に有意な差が見受けられた。
同アンケートの分析から、「中間支援のこれから」について、それぞれのこども食堂等の多様性を尊重した支援の重要性があらためて導き出された。

8．提言

評価結果に基づき事業を継続していく上で、役立つ提案・助言を記載してください。
本事業をどのように持続・発展させるか、休眠預金に依存せずに自走化させる戦略とその実施状況等を記載してください。

中間支援団体として、支援対象の範囲や数を増やしていく。
大阪市内とその周辺を対象に活動してきたが、3年の間に、登録や支援を希望する団体が増加し、団体が所在する自治体数も15に増加した。対象地域の設定として、大阪市内だけとした場合、府下への広がりに遅れが生じたと考えられる。また府下全域とした場合には、十分に応えられなかったと考えられる。対象地域の設定として、民間ならではの柔軟さを発揮することができ、等身大の、生活圏に密着した支援を行うことができた。
また、各自治体内でもネットワーク形成が進んでおり、それらのネットワークを支援するという形や、ネットワーク形成の過程を支援するということも行うことができている。各ネットワークでのイベント開催やセミナー開催に協力することができた。
また、大阪府内にとどまらず、他県のネットワークとの連携も進んでいる。全国と大阪をつなぐという連携のあり方に加えて、大阪と各地のネットワークが連携するという取り組みも生まれてきている。企業からの寄贈物品量が多い場合に、分担して受け取ることができている。また、各地での同様の課題を共有し、互いの知見を活かし合ったり、相談し合ったりする関係ができている。

中間支援の中身としては、こどもの居場所活動を支援する上で、フードバンク機能とソーシャルワーク機能の両面から、引き続き支援していく。　また、中間支援の活動だけではなく、直接的な活動も引き続き継続していく。

財政面に関しては、助成金だけではなく、寄付収入、会費収入を増加していく。
今回取り組んだ内容に関する助成金として、フードバンクに関するものは、使途や金額が限られているが、今後も一定程度継続して受給することが見込まれる。ソーシャルワーク機能については、目的に応じた助成金を獲得していく。中間支援にまつわる助成金についても別途申請する。

9．知見・教訓

事業の経験や学びから類似課題への取組みに参考とできる具体的な教訓を記載してください。

市民活動はとても重要であり、市民活動への支援はとても重要である。市民活動は主体性が重要であり、多様なものである。中間支援は、市民活動の主体性を尊重し、多様性に応じた支援が必要である。活動者と支援者の関係性が重要であるが、そのためにはきっかけと回数や期間の積み重ねが大切である。

支援対象者であるこども食堂等活動団体と、中間支援団体が触れ合う機会は、食品提供等のときと、研修・交流会等のときの2パターンがある。その繰り返しの中で、普段の活動の様子、おもいや悩みなどを共有する機会ができ、具体的な助けになったり、関係性を構築していくことができる。

活動団体と、その中間支援組織との関係性づくりにおいては、定期的に直接会う機会が伴うようなハードインフラをまず整えることが、その後のソフトインフラ築く下地になると考える。

中間支援団体は、こども食堂等を通じてこどもや家庭に届けるための食材等を、企業等との関係を構築して寄贈提供を受ける。企業にとっても、寄贈を受け取り、安心して配付を依頼することのできる窓口としての中間支援組織は必要な存在である。今後、中間支援組織の自立的な活動継続のためにも、企業からの寄贈提供時の運送や調整に関わる費用や人件費の提供も含めた支援が必要だと考える。

今回の休眠預金事業では、実行団体が、一定圏域の中間支援組織になり、資金分配団体が、各地の中間支援組織を支援して、交流させるという枠組みをつくったところが最も素晴らしかった点だと思う。

今後、活動団体、活動団体を支援する一定圏域の中間支援組織、それらの中間支援組織を支援、交流させる枠組みを持つ組織という3階層が重要だと思う。

また、中間支援組織自身が全国の研修に参加し、他地域の取り組みにも学ぶことで、地域をまたいで協力し合うことができるようになり、結果的に地元の活動団体にとってもよりよい支援を提供することができるようになる。

１０．資料（別添）

資料説明	・アンケート調査結果（別紙）